

INTARFRM アーキテクト人材像

策定元(社名) FJCS 富士通INTARFRM推進部	策定主査 尾形、西川 岸	更新日・版数 初版	2013/09/30(第1.1版) 2010/03/23(第0.1版)
--	---------------------------	---------------------	--

概要・特徴・狙い

概要
INTARFRMを適用するプロジェクトにおいてプロジェクトメンバの一員としてもしくはプロジェクトサポートとしてINTARFRM上のアプリケーション構築を推進、もしくは指導する人材を「INTARFRMアーキテクト」として定義する。

ねらい

- INTARFRMを活用できる人材の持つべきスキルレベルを明確化し、対象当該人材の早期育成と増加を計る。
- INTARFRMを活用できるスキル保有者の増加により、SEのビジネス活動(SI受託開発、再利用素材開発/PKG商品開発、SaaS商品開発)へのINTARFRMの適用率の向上を図ると共に、INTARFRM適用プロジェクトの品質と生産性を向上させトラブル防止に繋げる。

役割・範囲・フォーメーション

役割
INTARFRM適用プロジェクトにおいて、プロジェクトの業務開発メンバーに対して推進指導を行い、アプリ開発の生産性向上、品質向上を担う。
①業務アプリをINTARFRMの仕様で誘導する
②INTARFRM上での業務アプリを効果的に実装するための設計指導
③INTARFRMの導入促進(開発標準の適用)
④INTARFRMの部品適用推進(システム開発キットの適用、共通化推進)

フォーメーション概要

作業範囲概要

	VP	SP	RD	UI	SS	P ²	P ¹	IT	ST	OT	OM
経営業務											
システム運用											
アプリ											
アプリ基盤											
システム基盤											
運用・保守・展開											
開発支援											
プログラマー											

INTARFRM開発技術者 (VP, SP, RD, UI, SS, P², P¹)
INTARFRMアーキテクト (UI, SS, P², P¹)
INTARFRMアーキテクト (UI, SS, P², P¹)

範囲・フォーメーションの詳細は、資料「別紙1. フォーメーションと対象作業」を参照。

RANK	人材像定義・スキル・経験・実績・資格	前提となる経験・実績・資格
------	--------------------	---------------

上位(プロフェッショナル)

高い次元からINTARFRMの目的を理解しCS向上に貢献する。
①技術動向や他社アプリケーションフレームワークを考慮してINTARFRMの優位性を説明・導入誘導する。
②INTARFRM発展に強い意欲を持ち、ソフトウェアライフサイクルを強化する再利用環境作りのためにINTARFRM資産改善、プロジェクト計画書やプロジェクトメンバ人材像定義などでリーダーシップを発揮する。
③下位メンバーを指導し、上位レベル作業の一部を遂行させる、上位への育成を行う。
(2013年度現在のINTARFRM認定資格では、この上位の認定は対象としていません。)

前提となる経験・実績・資格
・「プロフェッショナル」代行
×2～3回

一人前(エキスパート)

INTARFRMを適用したアプリ基盤の構築、開発標準の適用を独力で全て行うことができ、INTARFRM適用プロジェクトにおいて、プロジェクトの業務開発メンバーに対して適用指導を行い、アプリ開発の生産性向上、品質向上を推進する。
・主な役割は以下のとおり。

商 談 S U I	商談支援 技術調査・INTARFRM技術研修・環境構築 ①顧客要求とINTARFRM開発標準のフィット&ギャップ分析(仕様範囲への誘導) 潜在要件発掘、ハードウェア/ミドルウェア考慮、高品質・短納期への布石など ②バージョン間互換性調査、リポジットリ移行など ③開発作業手順・標準検討と設定 (設計情報管理方法、入力規則・手順書作成、画面標準定義、適用方法洗い出しと設計検討など) ④INTARFRM技術(開発キット他)説明・教育、開発環境構築、アプリ開発の見積り指導
S S O T	共通技術 設計支援 方式設計/開発基盤作成 ①標準化・入力手順説明 ②サンプルプログラム開発 共通技術 開発基盤作成/標準化確認 ①標準提供版テンプレートのカスタマイズ(プロジェクト版画面標準・方式設計テンプレート作成) ②入力後のリポジットチェック 開発支援 実装/品質確認 ①実装説明・指導 ②品質診断・システム運用診断と指導 ソースコード診断、結果精査、性能・障害調査・網羅性分析

・必要なスキルおよびスキルレベルは、「別紙2. スキルと人材の関係(工程別)」を参照。
・設計ツール管理編の修了済みもしくは同等の知識・スキルを保有していること。

前提となる経験・実績・資格
・「エキスパート」代行
×2～3回

スペシャリスト

INTARFRM適用プロジェクトにおいて、開発支援作業を確実に遂行することが出来る人材(対象言語については1つ以上)。
①INTARFRMの基本知識を有すること(設計ツール基礎編またはフレームワーク基礎編(Rapid Edition)と開発編1科目の修了済、または同等スキルを有する)。
②設計ツール(Design Facility)を用いた設計作業、開発ツール(Development Facility)を用いたプログラム開発作業が行える。
③一人前(エキスパート)の支援を受けながら主体的に作業が行えること。
④INTARFRM開発標準(SDEM実践標準およびシステム開発キット)の知識・スキルを保有(設計編の修了済、または同等スキルを保有)し、開発標準の説明および共通部品の抽出・作成が出来る。
⑤テンプレートのカスタマイズについての知識、スキルを保有し、要件に合わせてテンプレートのカスタマイズが出来る。
・必要なスキルおよびスキルレベルは、「別紙2. スキルと人材の関係(工程別)」を参照。

前提となる経験・実績・資格
【経験・実績】
・不要